

月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用・厚生労働省・国土交通省・(株)官公通信社・高齢者住宅新聞社・福祉新聞・日本経済新聞 他

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会
〒501-3246
関市緑ヶ丘2-5-78
TEL：0120-337-301
FAX：0575-24-5733

障がい者グループホームの変遷

～時代は、中古改修⇒新築包括型
⇒新築日中サービス型支援型へ～



今回は、障がい福祉の業界の中でも障がい者グループホーム（＝共同生活援助）の運営の最新動向をお伝えさせていただきます。既に障がい者グループホームを運営している事業者様、また、新規で障がい者グループホームへの事業参入を検討している事業者様にご参考になれば幸いです。

【全国ではまだまだ中古改修が多い】

障がい者グループホーム＝戸建やアパートを改修して運営する、というイメージの方はまだまだ多いです。全国でも実に約8割がこの中古改修型で運営しているグループホームと言われています。しかし、中古改修型のグループホームですと、人件費率が高くて収益性が悪い、入居者さんに古くて汚いお住まいに住んでほしくない、など、なかなか運営状況が厳しい事業者様も多いのが現状です。

【全国で増えている新築の包括型障がい者グループホーム】

そういった中、全国で増えてきているのが、「新築・10室・介護サービス包括型障がい者グループホーム」です。新築のスケールメリットを活かした収益性、入居者さんにとっても嬉しいきれいな新築、と事業者様、入居者さんにとってもおすすめするモデルです。

【最新のトレンドは、日中サービス型支援型障がい者グループホーム】

さらに今現在最先端の運営をしている事業者様が注目しているのが、日中サービス型支援型障がい者グループホームです。包括型よりも、より重度向けの障がい者の受け入れが可能になっています。運営面として、夜勤の必須、建物面として、エレベーターやショートステイの必須、などがあります。グループホームの中でもより中～重度の方のお住まいが特に不足していること、令和3年度の障がい福祉の報酬改定においても、中～重度の方の対応に対する評価が上がったことから踏まえても、いま最も需要の高い障がい者グループホームと言えるでしょう。

今回障がい者グループホームの運営の最新動向についてお伝えさせていただきました。運営に関してのご相談や疑問がある方はお気軽にご連絡ください。弊社は、障がい者グループホームやその他福祉施設の開設を、建物面そして運営面からもサポートします。